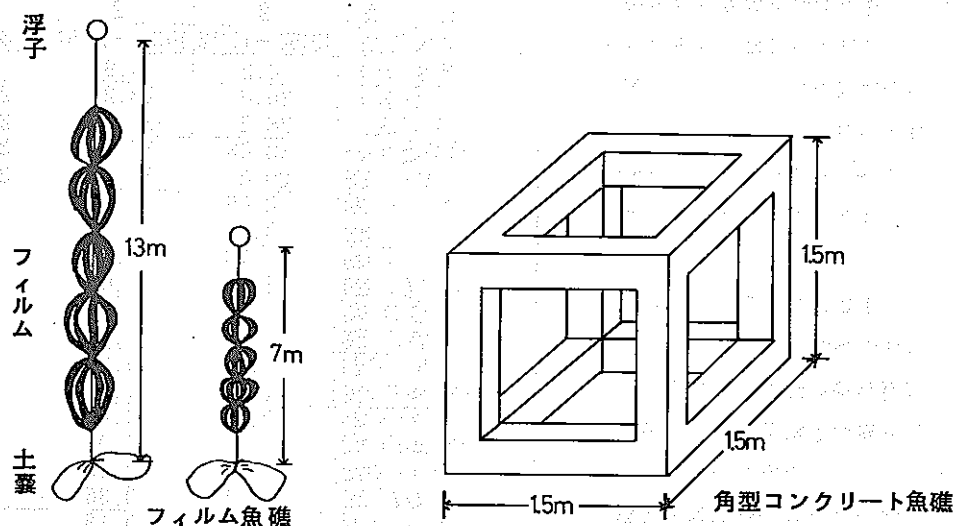


5. 魚礁効果調査

今年度は、図一5に示した二種類の魚礁を設置した。フィルム魚礁は東レより資材提供されたものを当支場にて組み立てて保護水面内に投入した。このフィルム魚礁は、魚礁を直立させるための浮子、フィルムを装着するためのロープ、魚礁を定位させるための土嚢、およびフィルムからなっている。フィルムはポリエステル製の不織布で巾10cmのものである。フィルム魚礁は、これまでの調査で中・表層に遊泳するタカサゴ類幼魚に効果があったので、図一5のように高さが7mと13mと底層から中・表層付近まで達するものを製作した。製作個数は7mのものが19個、13mの大型のものが5個である。これらは1981年4月16日、水深約15mの砂泥底に設置した。



図一5 今年度設置した魚礁

他の魚礁は保護水面管理事業の一環として設置した1.5m角型コンクリート魚礁である。この魚礁は1981年11月9日、フィルム魚礁設置場所付近の水深約13mの砂泥底に32個を二段積み設置した。

魚類の蛸集状況を観察するための潜水調査は、1981年5月28日、6月26日、11月12日、1982年1月22日、2月23日の5回実施した（5月と6月はフィルム魚礁のみ）。

フィルム魚礁には、設置後4日間経過した5月28日の調査でスズメダイ類・イシモチ類・ハタンボ類の幼魚が蛸集していた。これらの魚類はフィルムのごく周辺に浮游状態で群集しており、スズメダイ類はその後成長してもフィルム魚礁についていた。以後の4回の調査では、6月に浮子の近くに背部外套長20cmくらいのアオリイカが2尾いたのを除くと特に変わった蛸集状況は観察されなかった。タカサゴ類の幼魚が浅海域に來遊する7月から9月の調査が欠如しているため、次年度この時期の魚類蛸集状況を明らかにする必要がある。

1.5m角型魚礁は、設置後3日目の11月12日には、まだ魚影は見られなかった。以後、2回の調査では、クロハギ、ブダイ類、ツバメウオの小さな群れが蛸集しているが、冬季で魚類相の最も貧弱になる時期なので、今後水温の上昇とともに蛸集魚が増加してくるものと期待される。